

# 決算説明資料

2022年3月期



Listed Company 4241

2022年5月  
株式会社アテクト

# 2022年3月期(第53期) 業績総括

---

# 全社連結業績

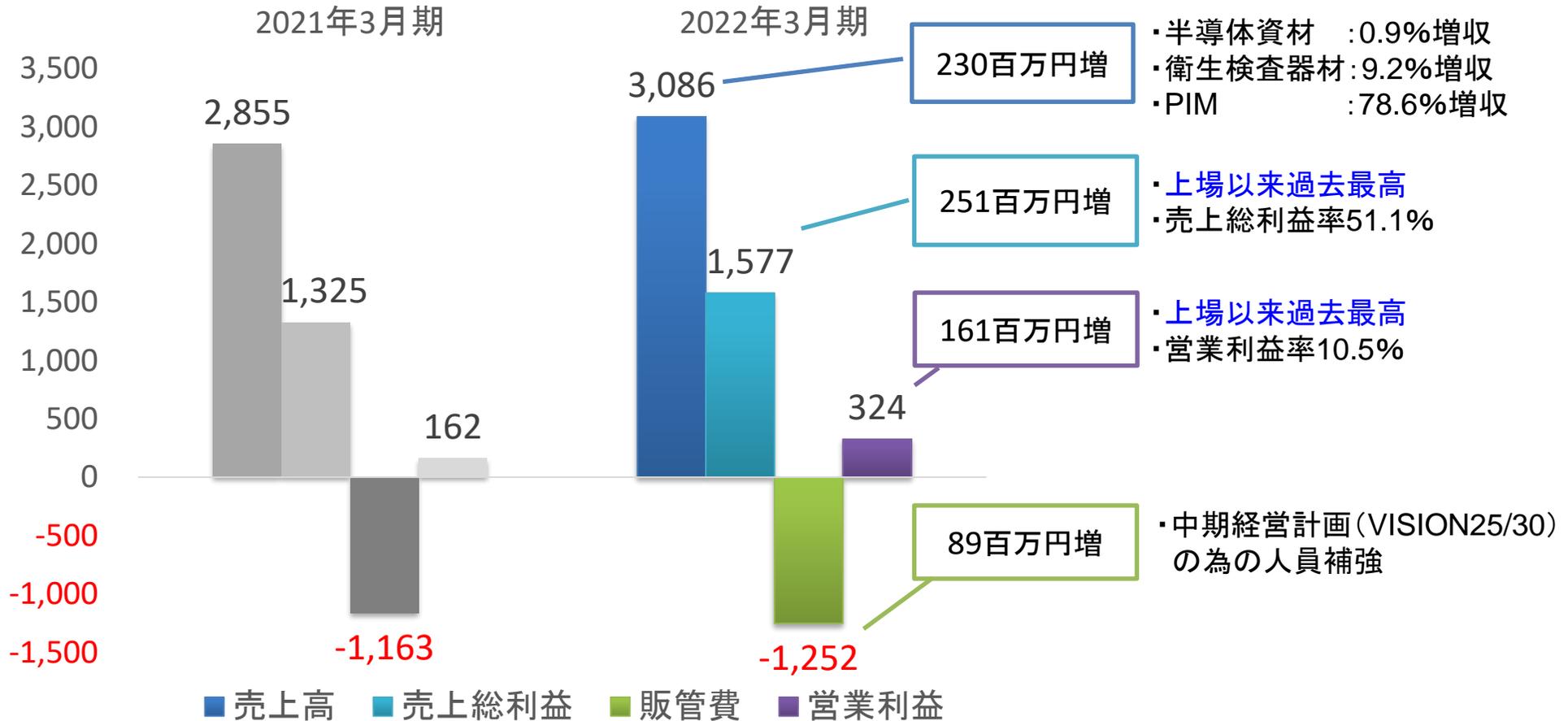
(単位:百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	増減率
売上高	2,855	3,086	8.1%
売上総利益	1,325	1,577	19.0%
	46.4%	51.1%	
営業利益	162	324	99.9%
	5.7%	10.5%	
経常利益	189	348	84.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	75	169	125.8%

3事業全てにおいて増収増益、営業利益は上場以来過去最高を更新

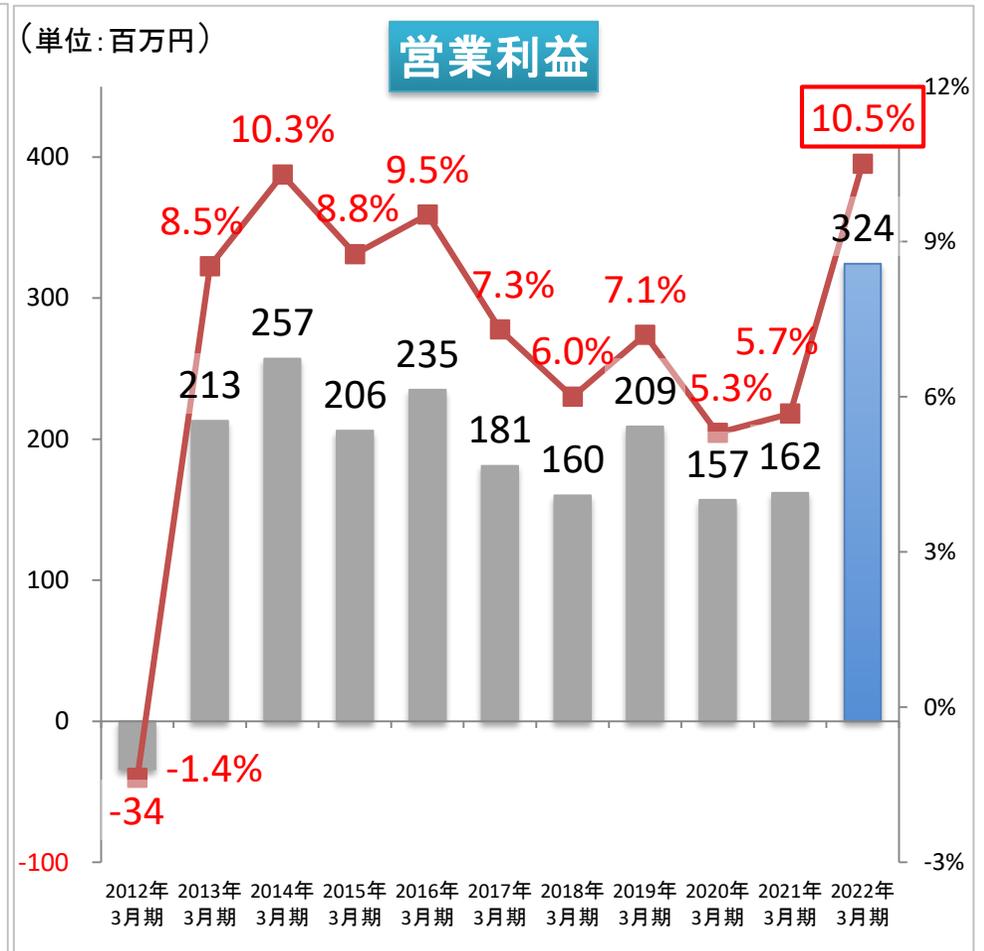
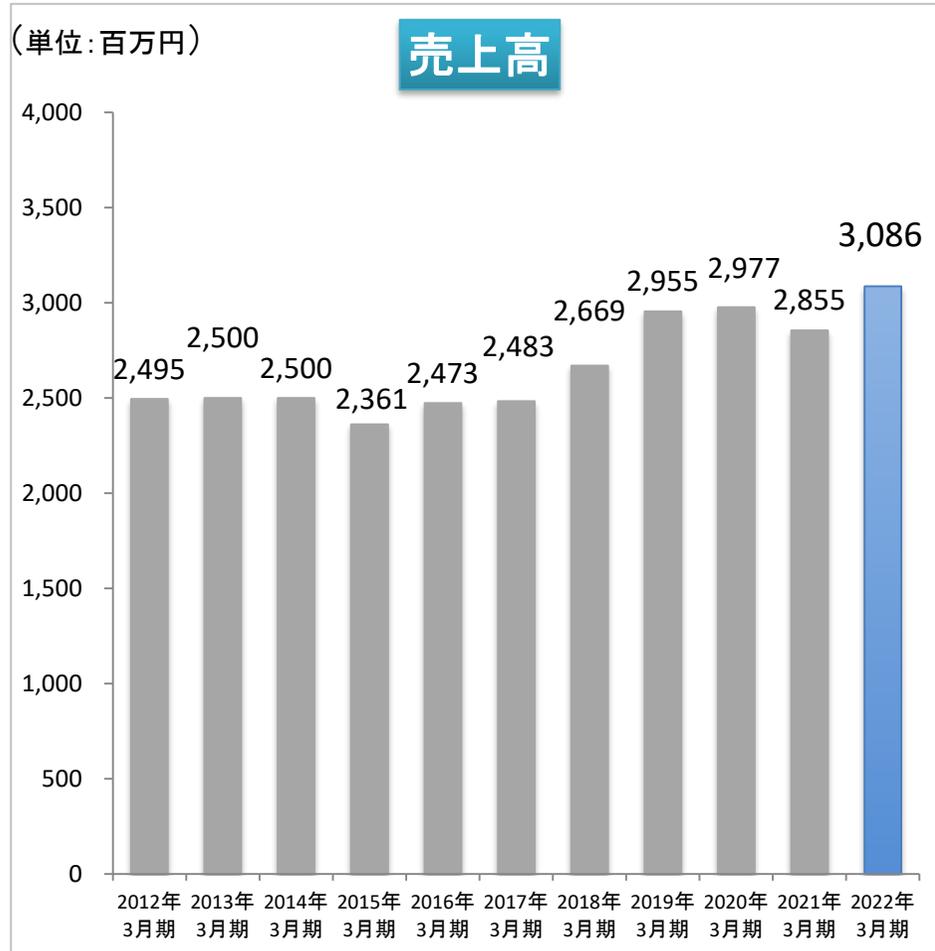
# 2022年3月期収益サマリー

(単位:百万円)



売上総利益の大幅増(251百万円)により販管費の増加(89百万円)を吸収し、営業利益・率共に過去最高(営業利益率10.5%※VISION25/30目標値10%)

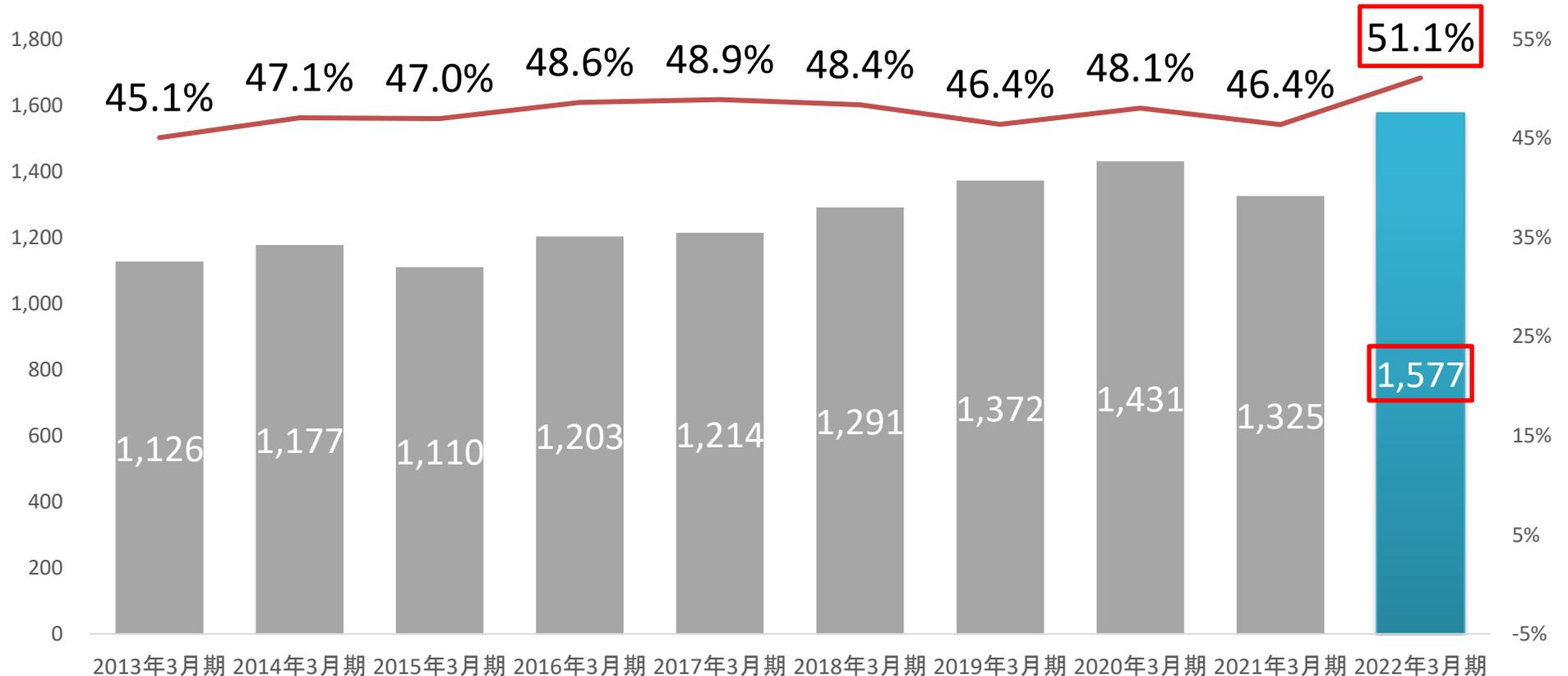
# 全社連結業績推移



11期ぶりの売上高30億円超え、営業利益は前期比2倍に拡大

# 売上総利益推移

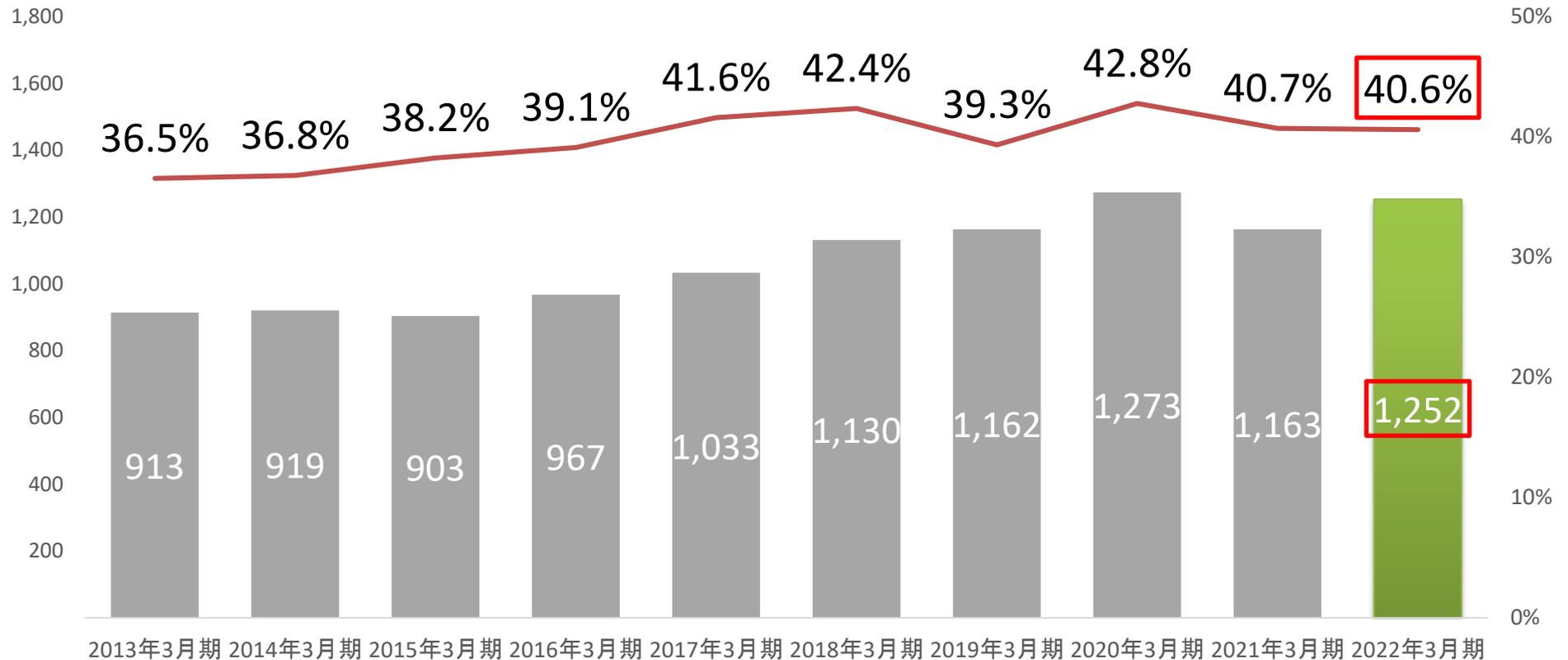
(単位:百万円)



各事業部での原価低減活動が奏効し、額・率共に過去最高値を更新、『モノづくり力』は確実に進化

# 販売管理費推移

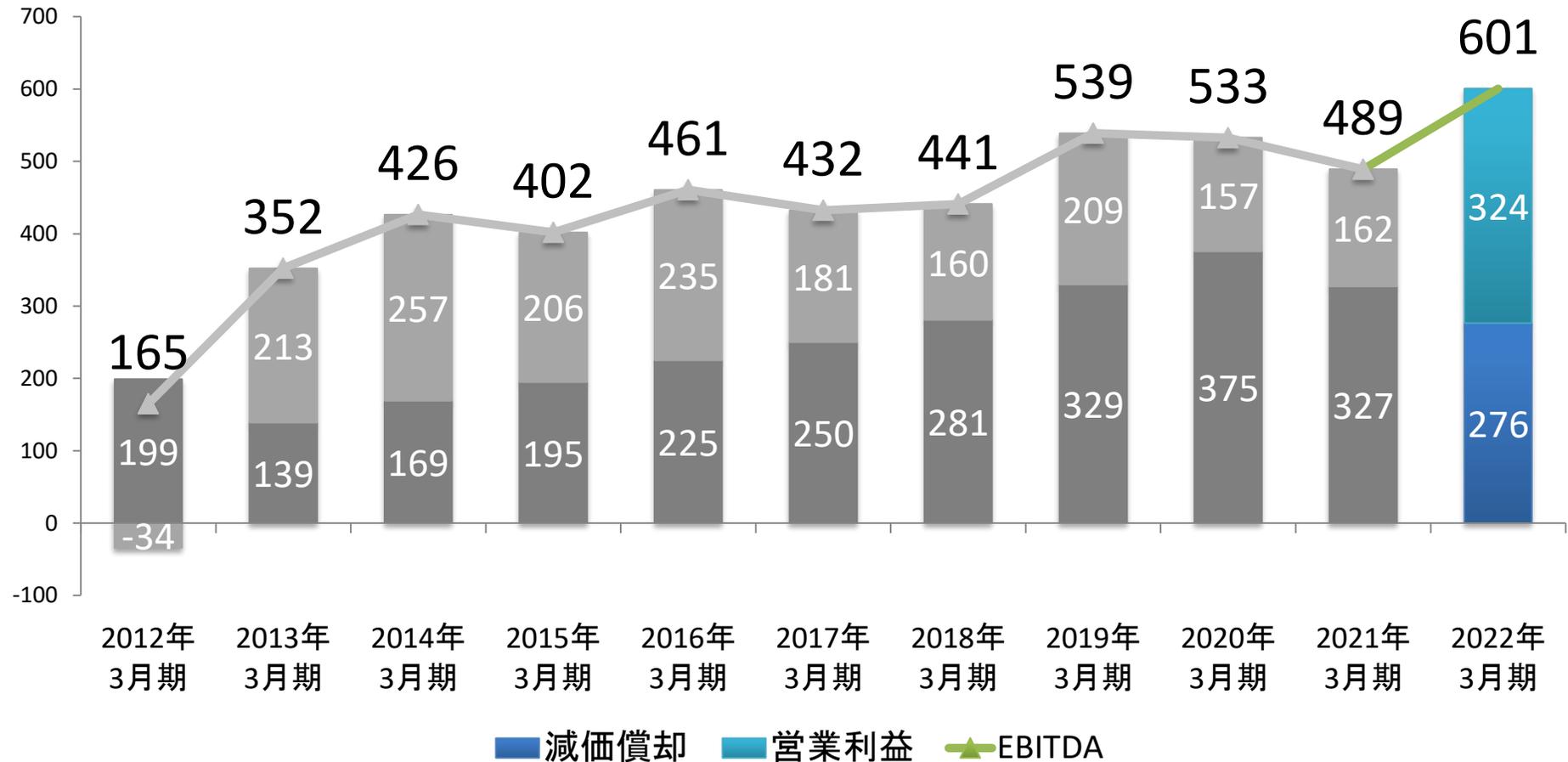
(単位:百万円)



増販対応と4大新製品事業化に向けた人員補強により89百万円増加

# EBITDA：企業収益力

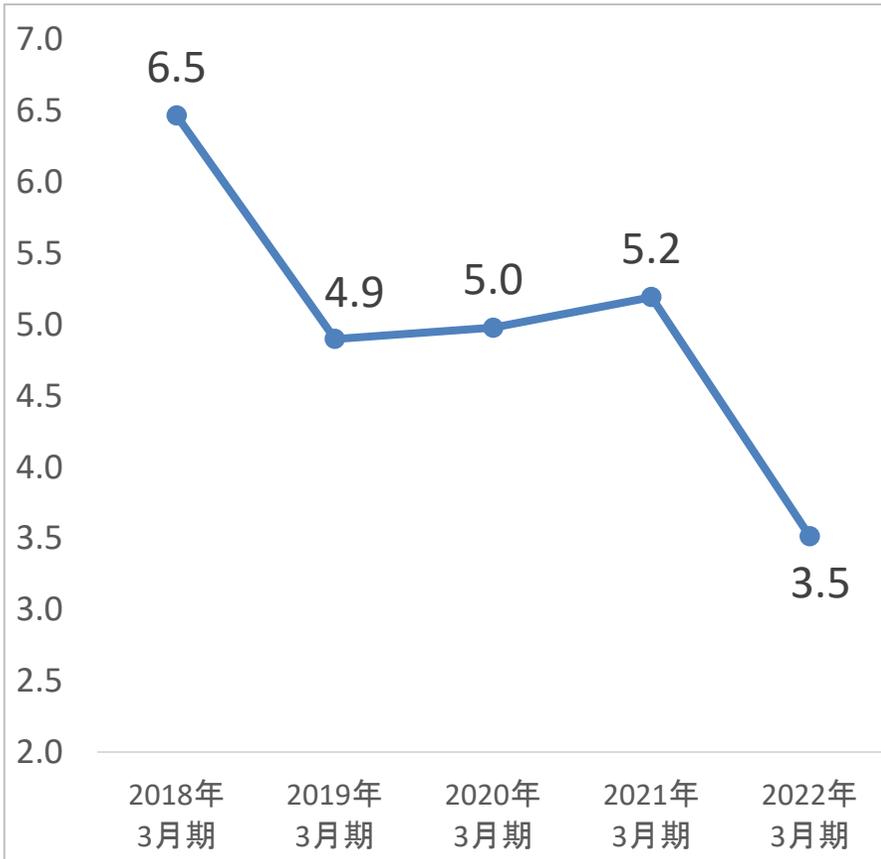
(単位：百万円)



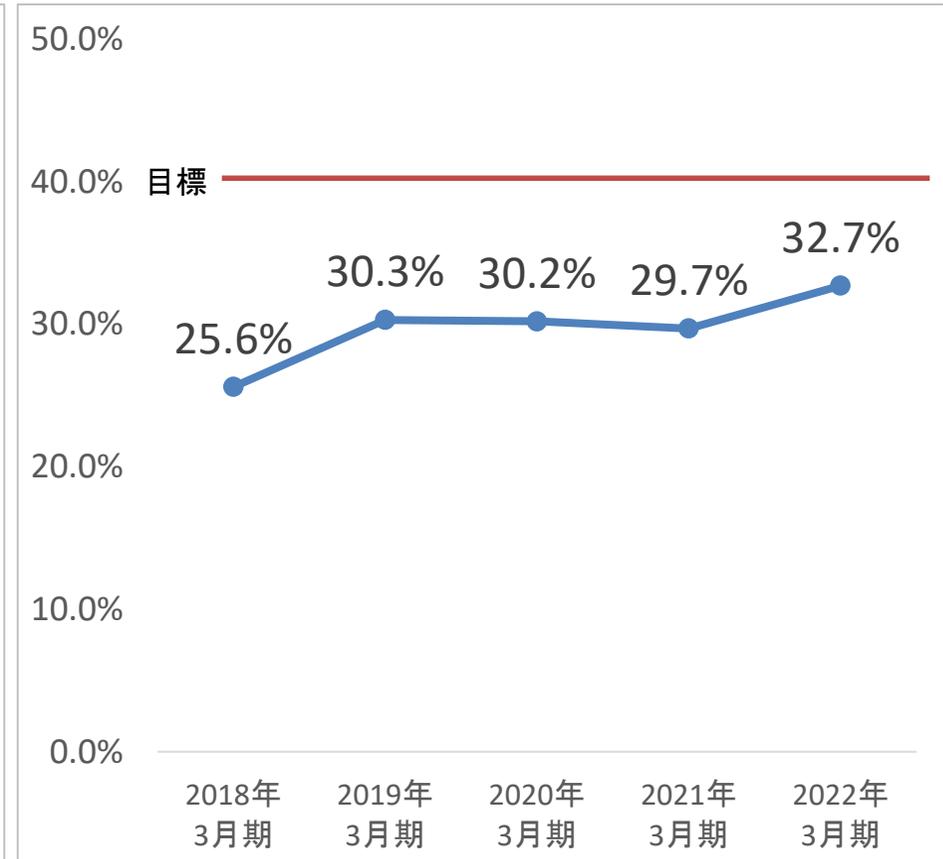
2018年3月期の滋賀移転に伴う大型投資以降の投資抑制により減価償却費は減少、営業利益の前期比2倍によりEBITDAは過去最高

# 財務健全化(ネット借入金/EBITDA倍率:自己資本比率)

ネット借入金/EBITDA倍率



自己資本比率



借入金/EBITDA倍率は3.5倍まで急速に改善、自己資本比率は5年で7.1%良化

# 各事業の現況と今後について

## 1. 半導体資材

- ① 巣ごもり特需や世界的サプライチェーンの混乱に伴う過剰在庫の反動により、テレビ需要の世界的な落ち込みが続き、通期販売数量は前年同期比10%減
- ② テレビ市場においては、やや持ち直しの兆しはあるが先行き不透明な状況は当面続く見込

## 2. 衛生検査器材

- ① 新型コロナウイルス感染症の影響により、新たな生活様式における食生活の変化、肉食需要の急増により大きく伸長
- ② 培地製品の売上高は前年比111.9%、シャーレ製品においてはN-NOSE(がん検査)用シャーレの需要増も相まって、年間販売数量は過去最高の8,200万枚(前期比107.5%)
- ③ 東京・大阪に次ぐ第3の営業拠点を福岡に開設し、従来のテレマーケティングだけではカバーしきれないきめ細かな営業活動も奏効

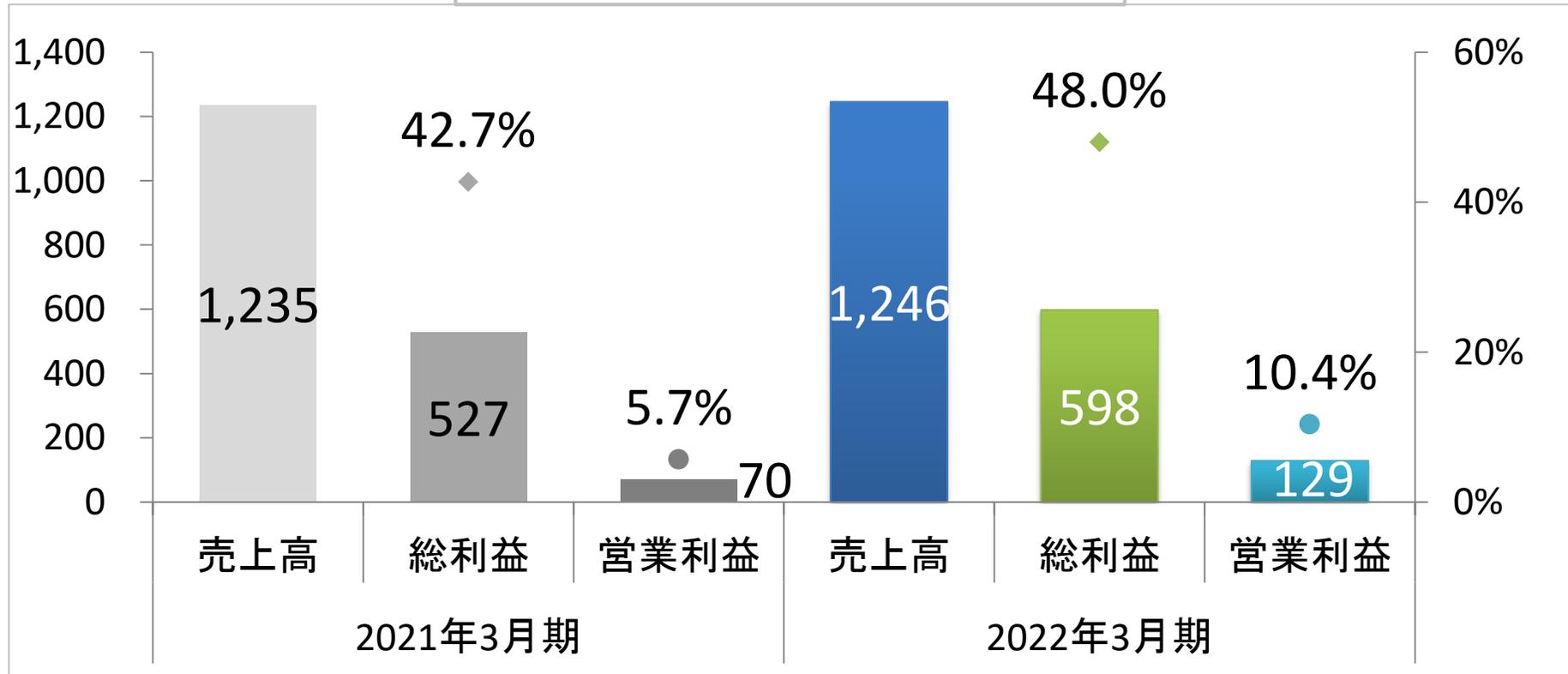
## 3. PIM

- ① 自動車部品量産準備の為、抑制していた営業活動は第3四半期以降解除し、現時点での量産部品は自動車部品の5品番を含め、計32品番まで拡大
- ② 自動車部品立上げに伴う高度なモノづくり力により更なる拡販を目指す

# 1. 半導体資材事業

(単位:百万円)

0.9%増収・83.8%増益



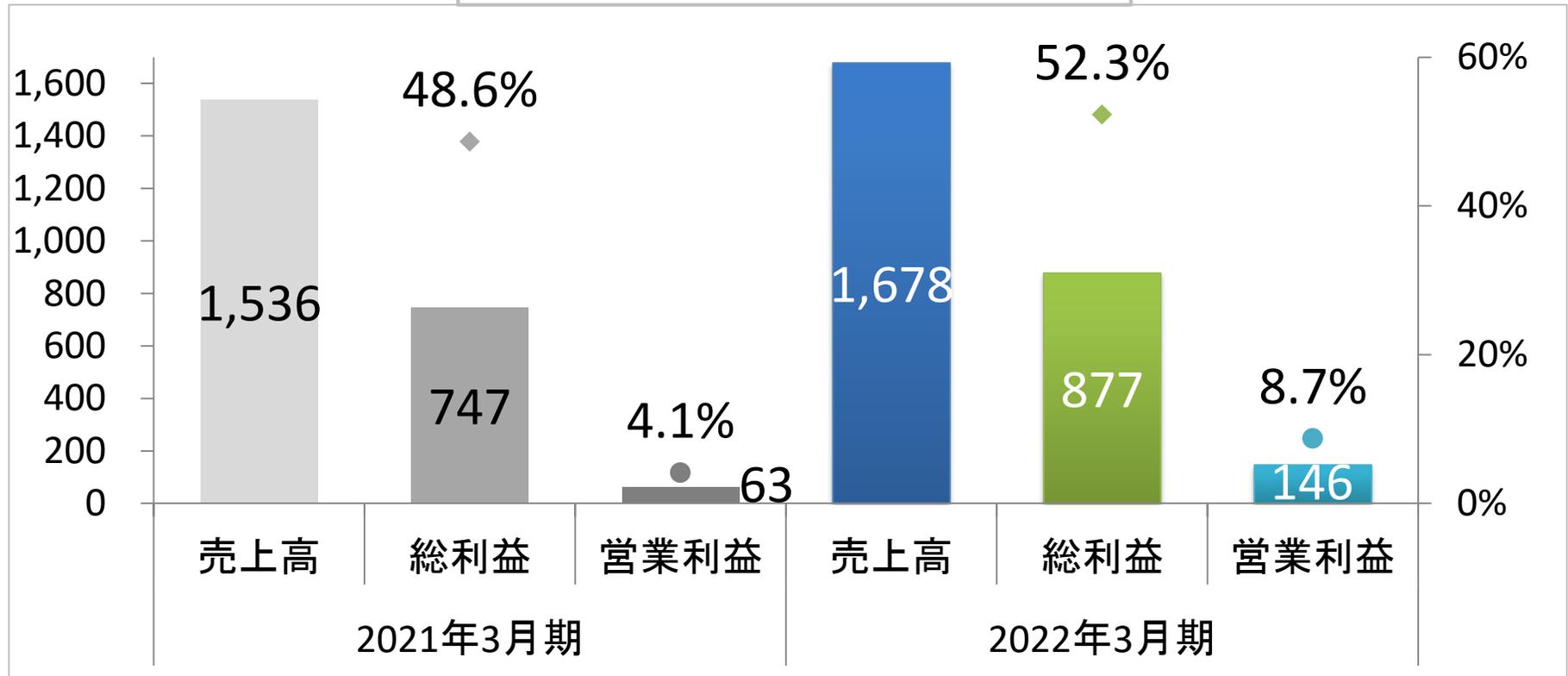
●通期販売数量は前年同期比10%減

●8K対応スペーサーテープ等、高付加価値製品比率拡大、円安・Won/NT\$高により増収

## 2. 衛生検査器材事業

(単位:百万円)

9.2%増収・131.3%増益

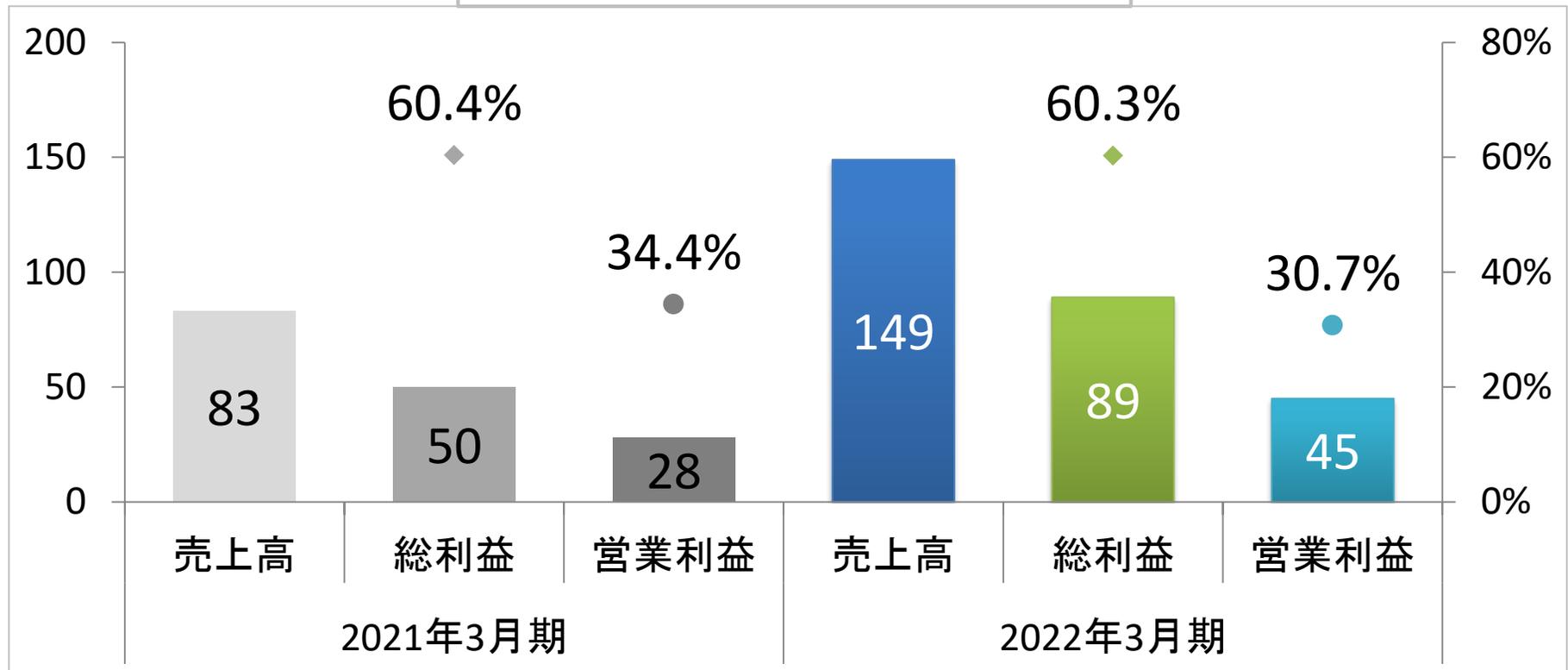


- シャーレの主原料であるPS(ポリスチレン)材の高騰は第3四半期以降に影響
- 原価低減活動の効果により、総利益及び総利益率(52.3%)は創業以来過去最高

### 3. PIM事業

(単位:百万円)

78.6%増収・59.5%増益



- ディーゼルトーボ用5品番は2021年12月より、量産開始
- 中国のいち早い経済回復により高機能部品が伸長し、売上高・営業利益共に過去最高

# 2023年3月期（第54期） 業績見通しについて

---

## 2023年3月期事業計画

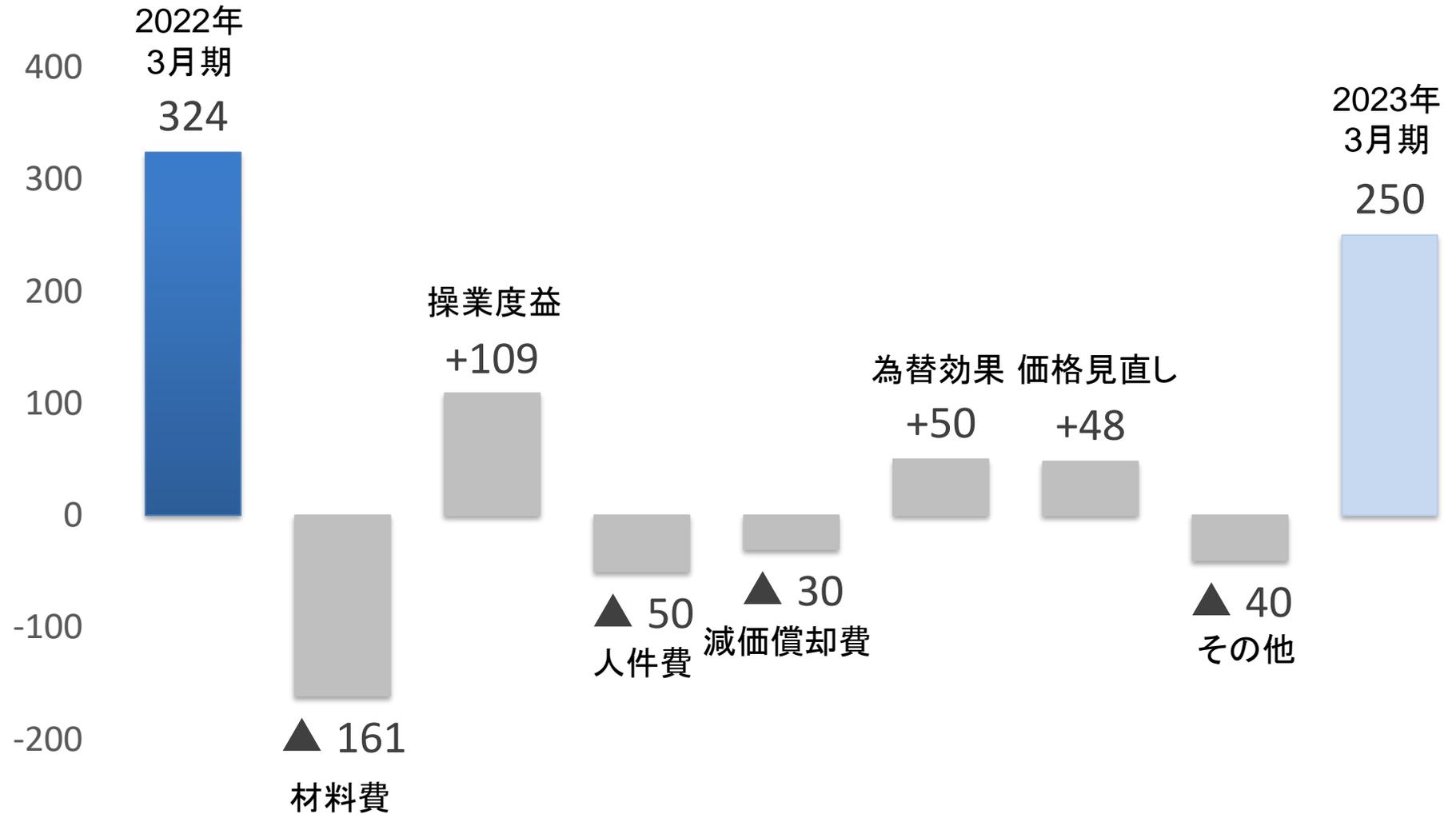
(単位:百万円)

	2022年3月期	2023年3月期	増減率
売上高	3,086	3,300	6.9%
営業利益	324	250	▲22.9%
	10.5%	7.6%	
経常利益	348	250	▲28.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	169	180	6.0%
配当予想	10円	10円	—

- 売上高は中期経営計画(VISION25/30)達成に向けた成長を継続
- 営業利益は主に原材料の高騰により22.9%減益、最終利益は増益の見込

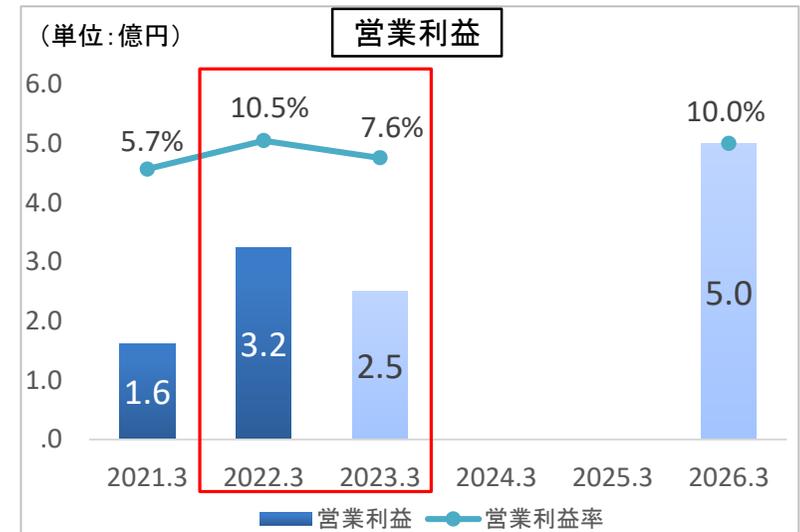
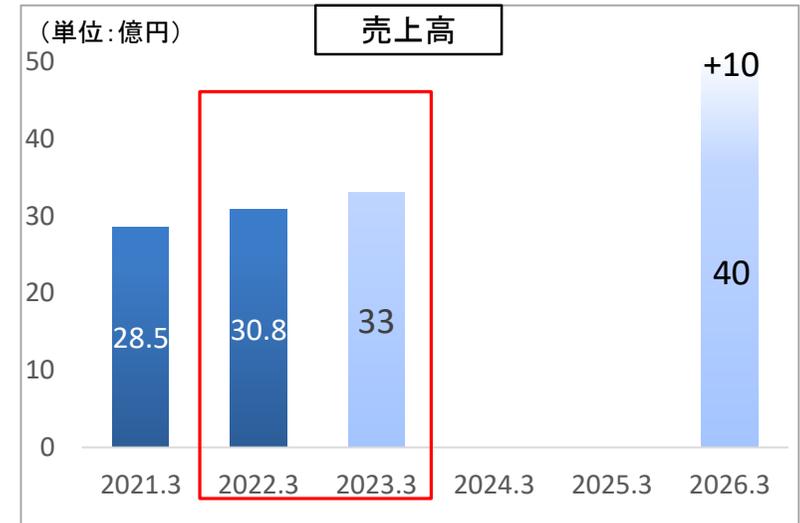
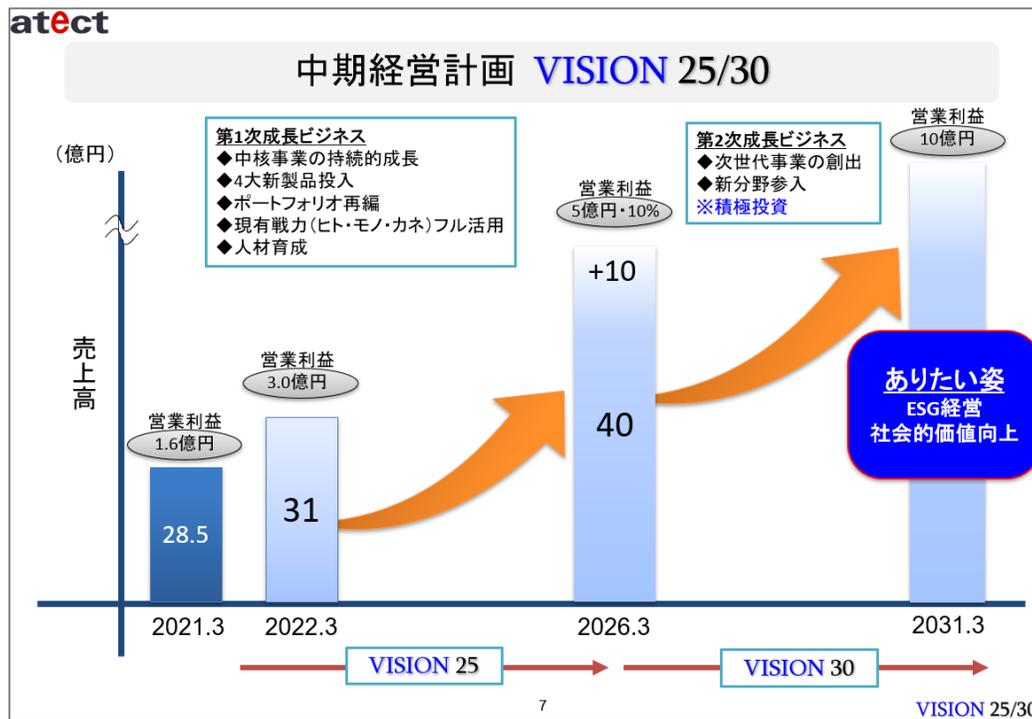
# 2023年3月期収益見込分析

(単位: 百万円)



# 中期経営計画 (VISION 25/30) 進捗

## 1次年度の結果と2次年度の見込



# 2023年3月期の業績を左右する4つの不確定要素

	現在の状況	起こり得る変化		ポイント
材料	× ×	適正価格	○	高騰はどこまで続くか？ 適正価格に戻るのはいつ頃か？
為替	◎	円高に反転	×	現在のWon、NT\$高は半導体資材ビジネスにおいて追風
新型コロナ	○	外食産業回復	?	外食産業回復後の衛生検査器材事業の売上への影響
TV需要	×	市場回復	○	現在は4期前の出荷数量 本来の成長軌道に回復？

## ポイント

### ●売上

- ・ 衛生検査器材事業におけるウイズコロナ・アフターコロナ下での食生活の変化が及ぼす影響
- ・ 半導体資材事業におけるテレビ市場の回復

### ●利益

- ・ 主にシャーレ材料であるPS材の価格の適正化と為替の影響

# 2023年3月期事業別アクションプラン

## 1.半導体資材事業

- ①変化する需要に対応したフレキシブルな生産体制
- ②円安に伴い日本生産の比率拡大

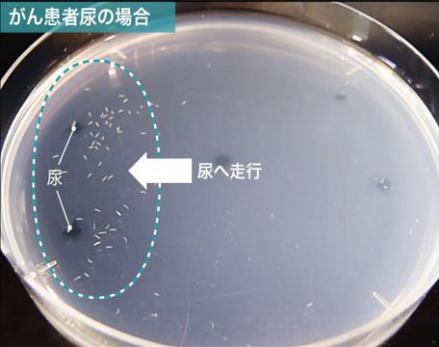
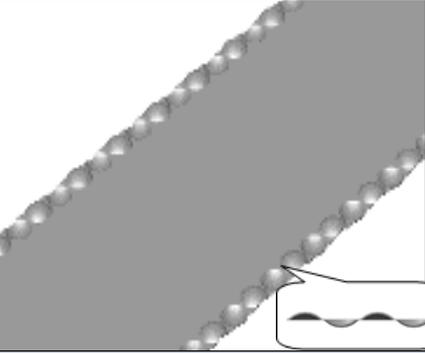
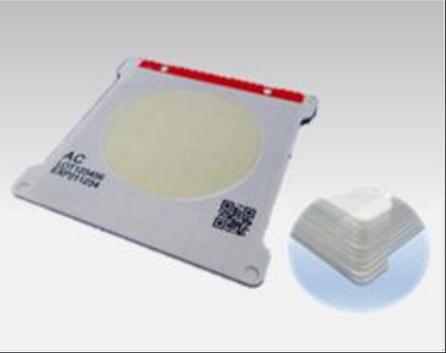
## 2.衛生検査器材事業

- ①ウィズコロナ・アフターコロナに対応した営業活動・生産体制
- ②N-NOSE(がん検査)用シャーレの普及に対応した増産体制
- ③簡易型シート培地『FM-Plate』の本格的な量産・販売
- ④東京・大阪・福岡に次ぐ第4の営業所を東海地区に開設

## 3.PIM事業

- ①3大量産品(自動車用ターボ部品／直動型ベアリング／セラミックス製CMOSセンサー部品)による売上拡大
- ②自動車用ターボ部品及び高機能部品の新規受注獲得
- ③量産化技術確立によるコストダウン

# 4大新製品立上げ進捗及び今後の対応

			
<p>ターボ部品</p>	<p>がん検査用シャーレ</p>	<p>8Kテレビ用 スペーサーテープ</p>	<p>FM-Plate (簡易型培地)</p>
<p>IHI向けディーゼルターボ部品(5品番)のフル量産開始 ⇒安定生産及びコスト削減</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●HIROTSUバイオサイエンス社と2022年4月設備投資に関する『基本合意契約』締結</li> <li>●今秋専用ライン稼働</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全出荷数量の12%に拡大</li> <li>●前期比1.8倍に伸長</li> </ul> <p>※FHDに対する消費量 4Kテレビ: 2.7倍 8Kテレビ: 4倍</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●既に50社以上に有償サンプルとして販売</li> <li>●2022年10月AOAC取得後本格的に拡販</li> </ul> <p>※AOAC: 食品・医薬品・化粧品等の分析に関する国際認証</p>

# 三甲株式会社との資本業務提携について

三甲社は、物流資材であるプラスチックパレットやプラスチックコンテナの最大手であり、開発、製造、販売まで一貫した自社対応により、同業界では圧倒的なシェアと製品数を持つ、プラスチック製品製造会社です。

## 両社の有する射出成形技術を起点に！

- ・技術・製造
- ・販売ノウハウ
- ・人的資源
- ・ネットワーク

双方の企業価値の拡大

### ● 当社のメリット

- ・三甲株式会社の持つ業界No.1の販売ネットワークの活用
- ・大量生産による高度な製造ノウハウの享受



今後より具体的なシナジー効果創出に向け協議

## 免責事項

当資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略などに関する情報は、当資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で行った判断に基づくものです。

しかしながら実際には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生などにより、当資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社は、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいります。当資料記載の業績見通しのみにより全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、転送等をおこなわれぬようお願いいたします。

## 本資料に関するお問い合わせ

株式会社アテクト 経営企画部 IR担当

TEL: 0748-20-3400

E-mail: ir@atect.co.jp